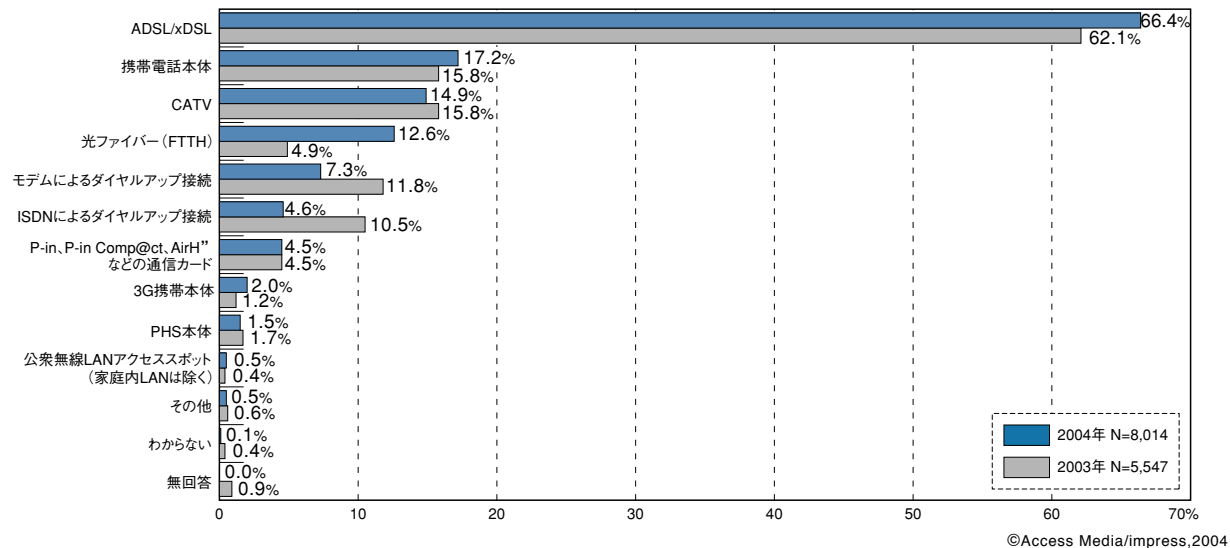


通信回線

ADSL/xDSLが66.4%、光ファイバーは昨年から3倍に

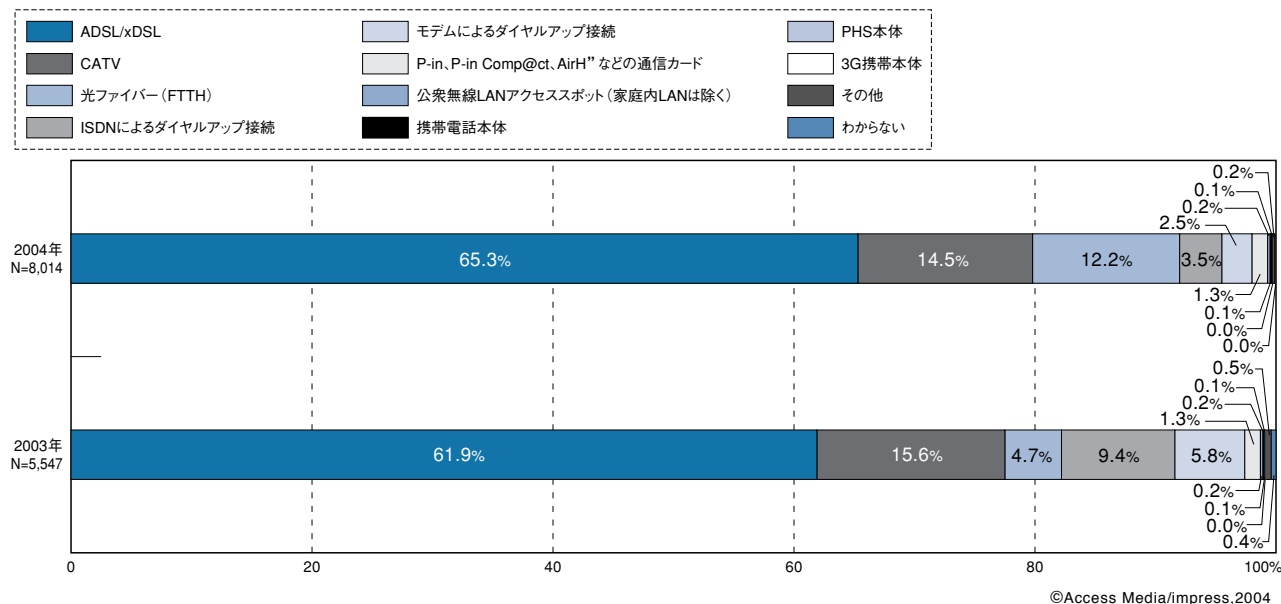
資料2-1-1 インターネット接続方法 (2003年-2004年)



自宅でインターネットを利用している全ての接続方法で最も多いのは「ADSL/xDSL」で、2003年よりさらに伸び66.4%と他を圧倒している。また、やや少ないもののブロードバンドでは「光ファイバー (FTTH)」が昨年から3倍近くに伸びているのが今年の特徴といえる。一方、ISDNとモデムによるダイヤルアップ接続は昨年よりさらに減少し、両者合わせても11.5%と全体の1割程度に過ぎない。

主な接続方法でもADSLが主流、携帯電話は補完的な位置付け

資料2-1-2 主なインターネット接続方法 (2003年-2004年)

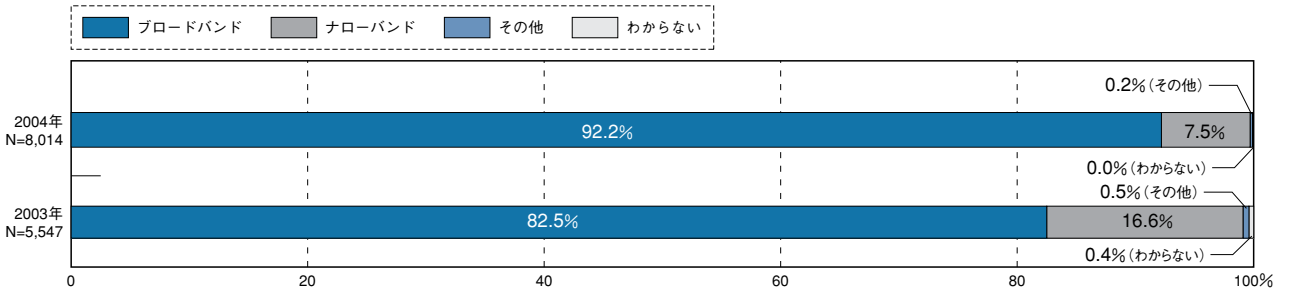


主な接続方法としても、「ADSL/xDSL」がトップで65.3%を占める。伸び率は鈍化したか、現在の主流がすでにブロードバンド接続に移行したことは間違いない。ブロードバンドの中でも2位の「CATV」は頭打ちで、「光ファイバー (FTTH)」がそれに並ぼうという勢いである。全ての接続方法で2位の「携帯電話本体」は0.1%と後退し、あくまで補完的な接続方法であることがわかる。

通信回線

インターネットの利用にブロードバンド接続が定着

資料2-1-3 主な接続方法に見るブロードバンドとナローバンドの構成比 (2003年-2004年)

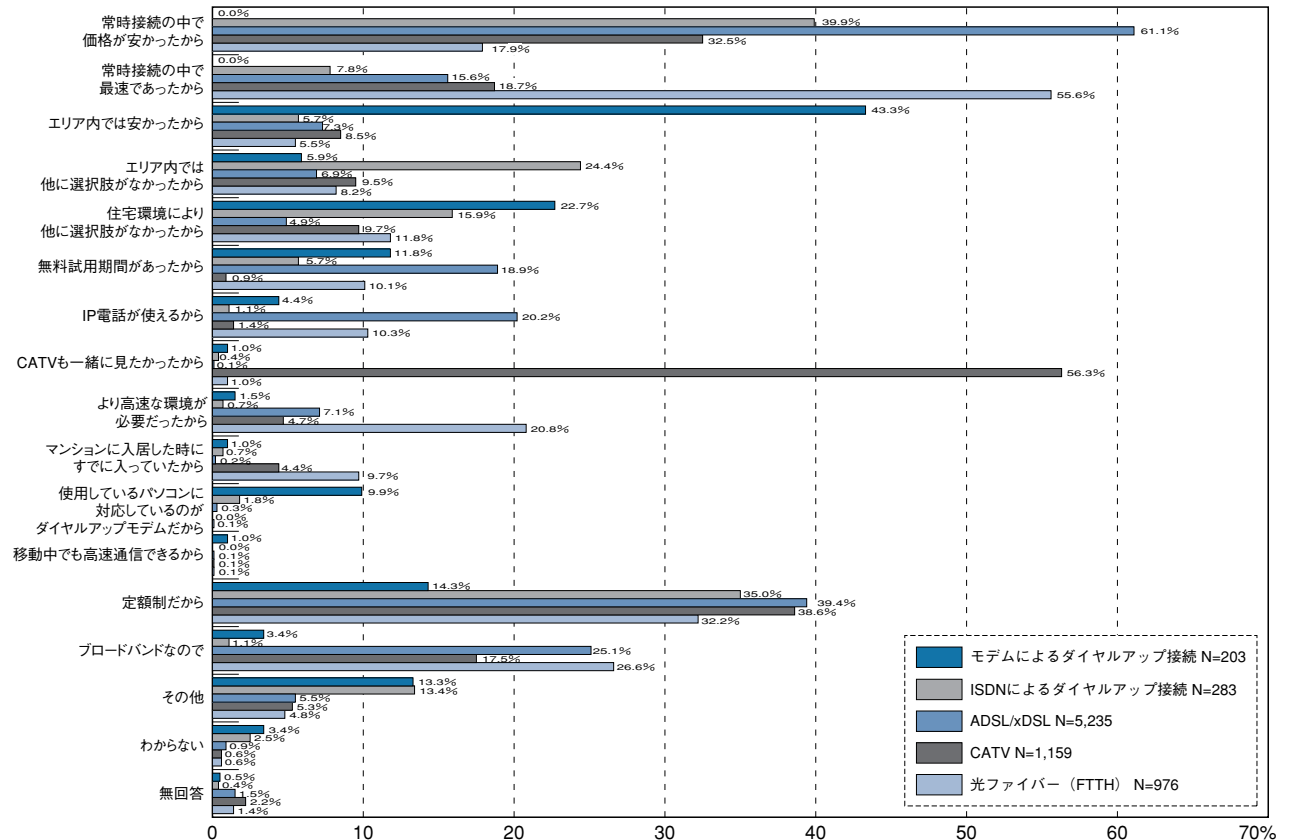


©Access Media/impress,2004

本調査結果がウェブによる調査に基づいているため、ブロードバンド利用者の構成比が高いというバイアスを差し引いても（ブロードバンド/ナローバンドの普及状況についてはp.52第1部の普及率調査を参照）個人の自宅からのブロードバンド接続は確実に浸透しており、昨年から比べると約1割増である。

「常時接続の中で価格が安かったから」が接続方法の選択理由

資料2-1-4 主な回線別接続方法の選択理由



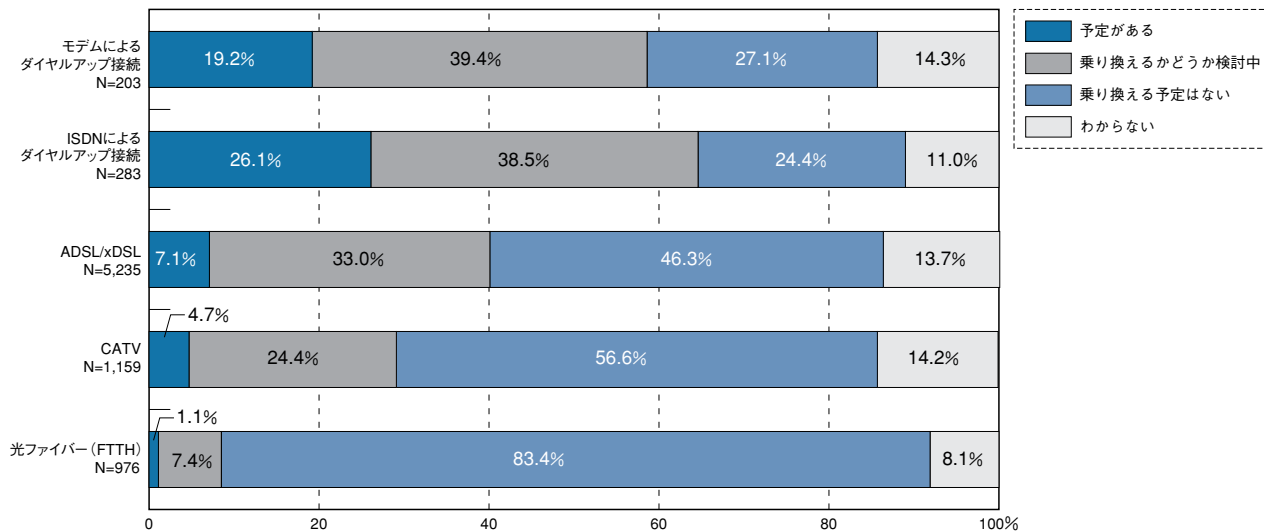
©Access Media/impress,2004

主な接続方法の選択理由では回線により、それぞれの特徴が見られるが、ブロードバンド回線利用者が多いだけに「常時接続の中で価格が安かったから」が最も多い。（各回線ごとに母数が異なる点に注意）また、「常時接続の中で最速だったから」という理由は光ファイバー（FTTH）の浸透により選択理由として今後伸びる勢いである。

通信回線

主な接続方法でもADSLが主流、携帯電話は補完的な位置付け

資料2-1-5 主な回線別乗り換え意向

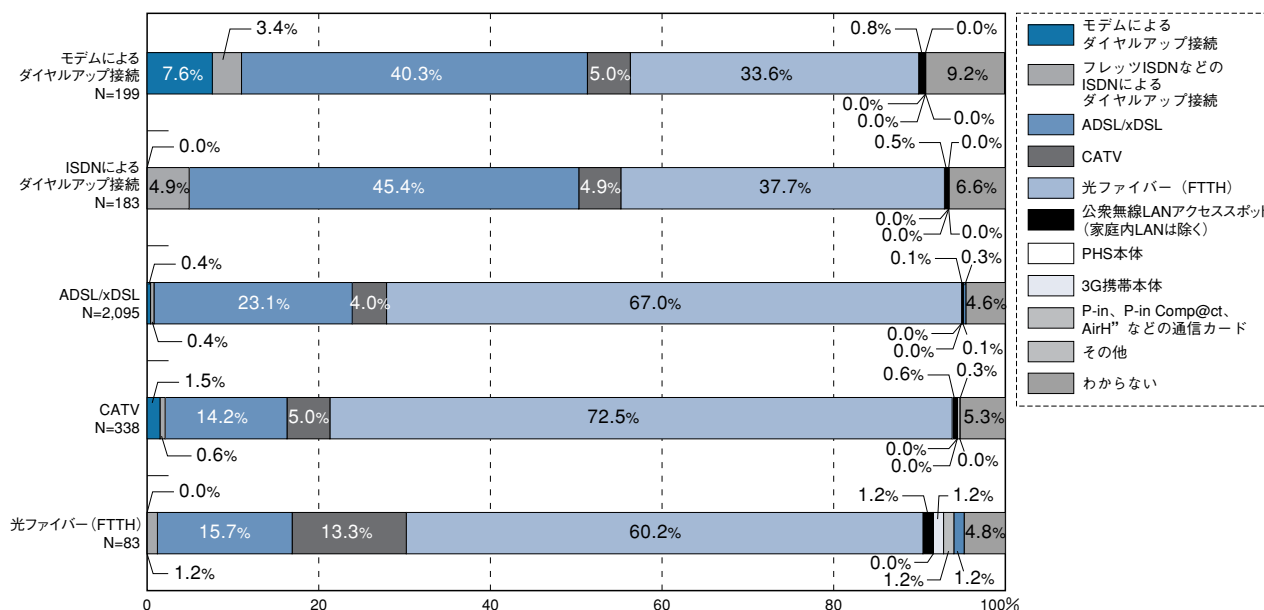


©Access Media/impress,2004

今年は現在利用中の主な回線別に乗り換え意向を聞いている。最も乗り換え意向が高いのは「ISDNによるダイヤルアップ接続」利用者で26.1%。「モデムによるダイヤルアップ接続」利用者よりも積極的な利用モチベーションが感じられる結果といえるだろう。また、急速に浸透した「ADSL/xDSL」利用者においてもすでに7.1%の乗り換え予定意向が見られる点には注目すべきである。

今後、乗り換えたい回線のトップは光ファイバー

資料2-1-6 主な回線別今後乗り換えたい主な接続方法



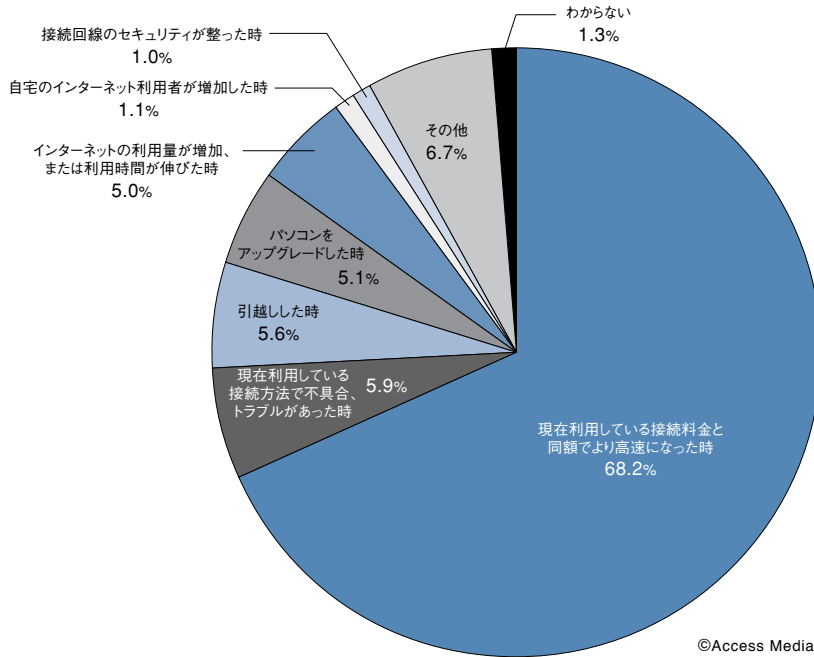
©Access Media/impress,2004

接続回線別に、予定者と検討中の乗り換え意向者に今後乗り換えたい接続方法を聞いているが、「光ファイバー (FTTH)」への乗り換え意向が最も高い。また、「ADSL/xDSL」利用者における「ADSL/xDSL」乗り換え意向も23.1%あり、回線種類は変えないものの、より有利な契約業者への乗り換えを想定していることもうかがえる。

通信回線

「現在利用している接続利用料金と同額で高速になった場合」に乗り換えたいが68.2%

資料2-1-7 乗り換え検討者が今後乗り換える場合の主な理由 N=2,899

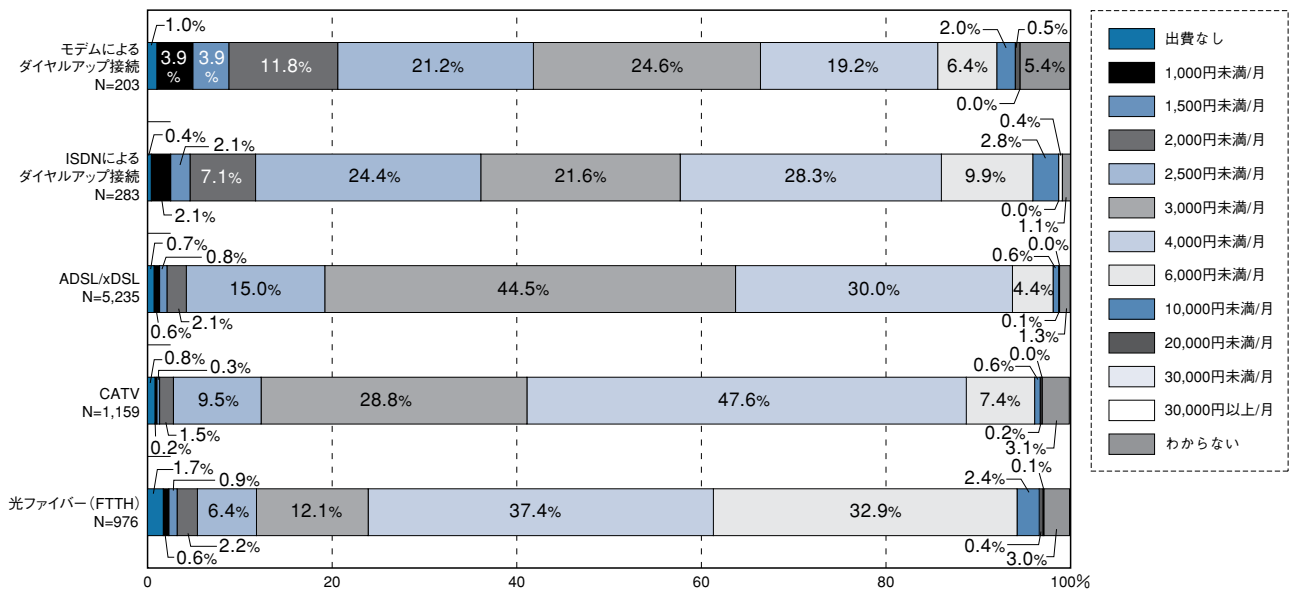


乗り換え予定者と検討中の回答者を対象にどのような場合に乗り換えたいかきいたところ、「現在利用している接続利用料金と同額で高速になった場合」(68.2%)が大多数を占める結果となっている。これは昨年とほぼ同じ傾向である。

©Access Media/impress,2004

ADSLでは3,000～6,000円、光ファイバーでは4,000～10,000円

資料2-1-8 主な回線別インターネットの利用料金



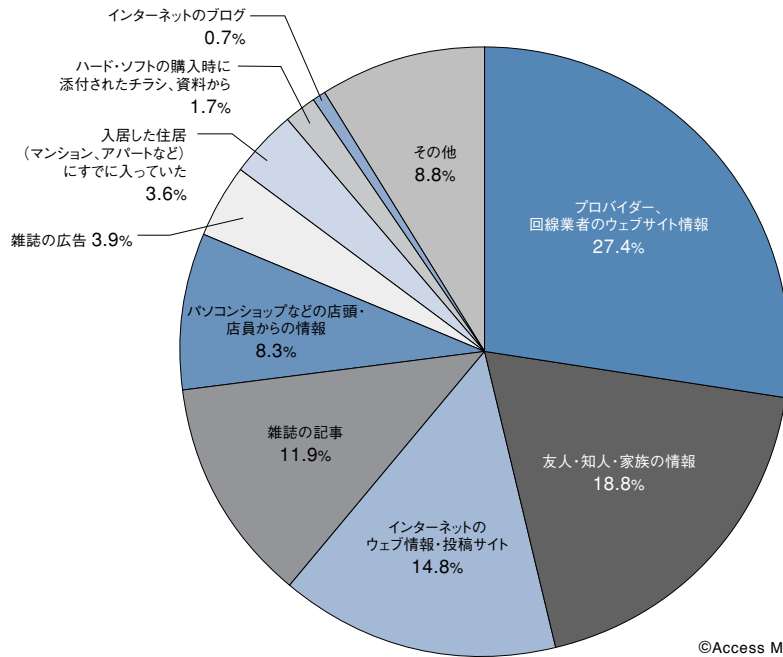
©Access Media/impress,2004

インターネット利用料金の月額平均は3,000円以上6,000円未満がボリュームゾーンで、現在のADSL環境の基本的な料金体系に準ずる。回線別で見ると、月額料金が最も高いのは光ファイバー (FTTH) 利用者で、4,000円以上から1万円未満の比率が高い。

通信回線

接続方法選択の際の参考情報はウェブサイト情報と口コミ

資料2-1-9 インターネットの接続方法を選ぶ際に最も参考にした情報 N=8,014

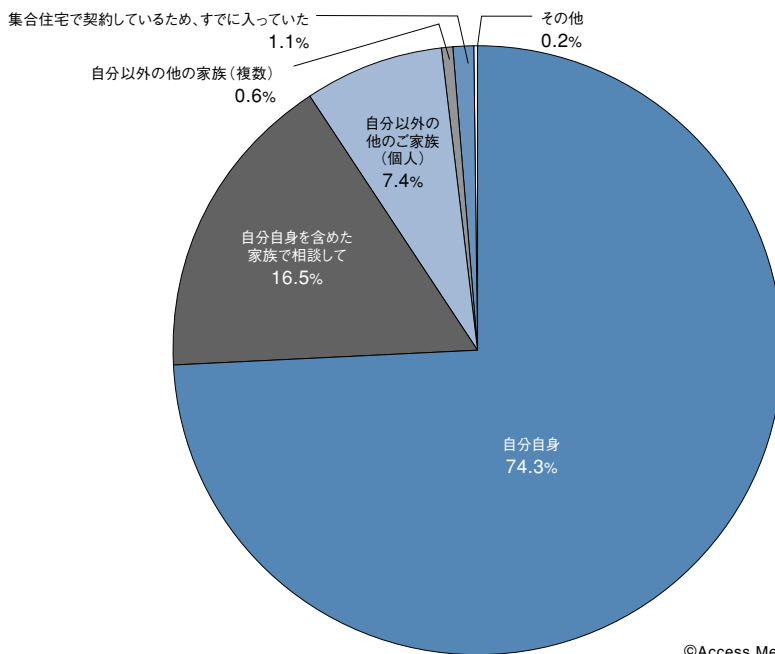


インターネットの接続方法を選択した際に最も参考にした情報は「プロバイダー、回線業者のウェブサイト情報」(27.4%)だが、「友人・知人・家族の情報」(18.8%)といった利用者側の口コミも重視されている。この傾向は昨年より強まっており、インターネット利用の浸透により、回答者の周りにこうした参考情報を持つ人が増えていることが推測できる。

©Access Media/impress,2004

回線の契約決定者は「自分自身」(74.3%)

資料2-1-10 主に利用している回線の契約決定者 N=8,014



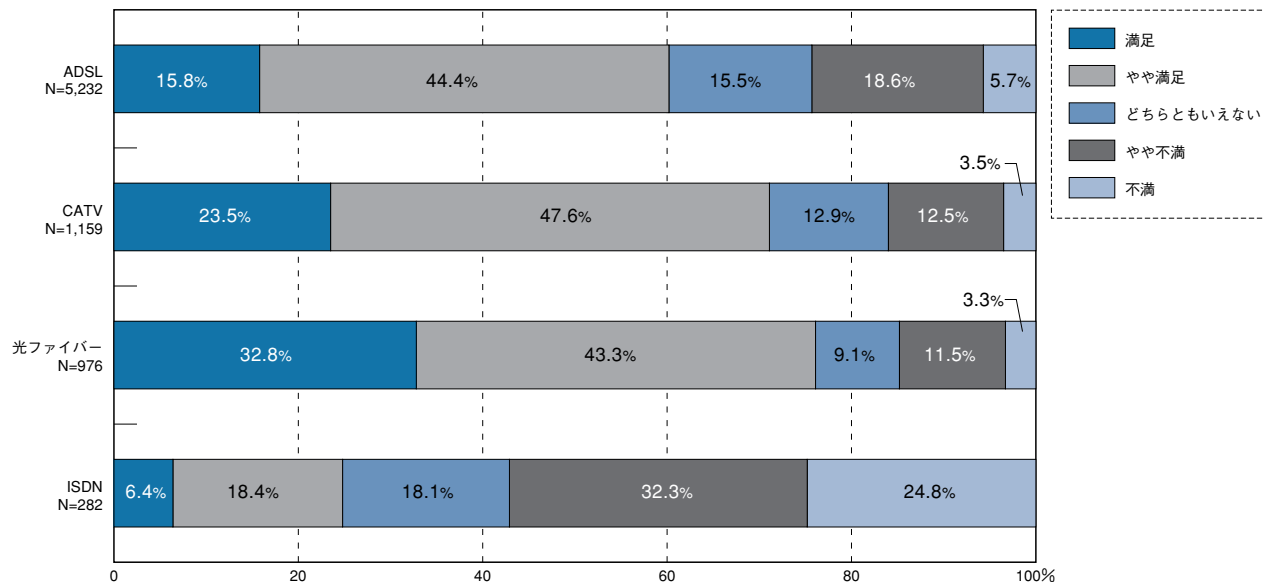
大多数は回答者本人が回線の契約を決定しているが、参考情報でも見たように、「家族で相談して」や「他の家族」の意思を尊重する傾向もあり、インターネット利用が家庭内である程度の地位を確立していることがうかがえる。また、最近の家族内利用者の増加傾向からもうなずける結果であるといえるだろう。

©Access Media/impress,2004

通信回線

ISDN利用者の不満が24.8%と高い

資料2-1-11 回線別品質・スピードに関する満足度

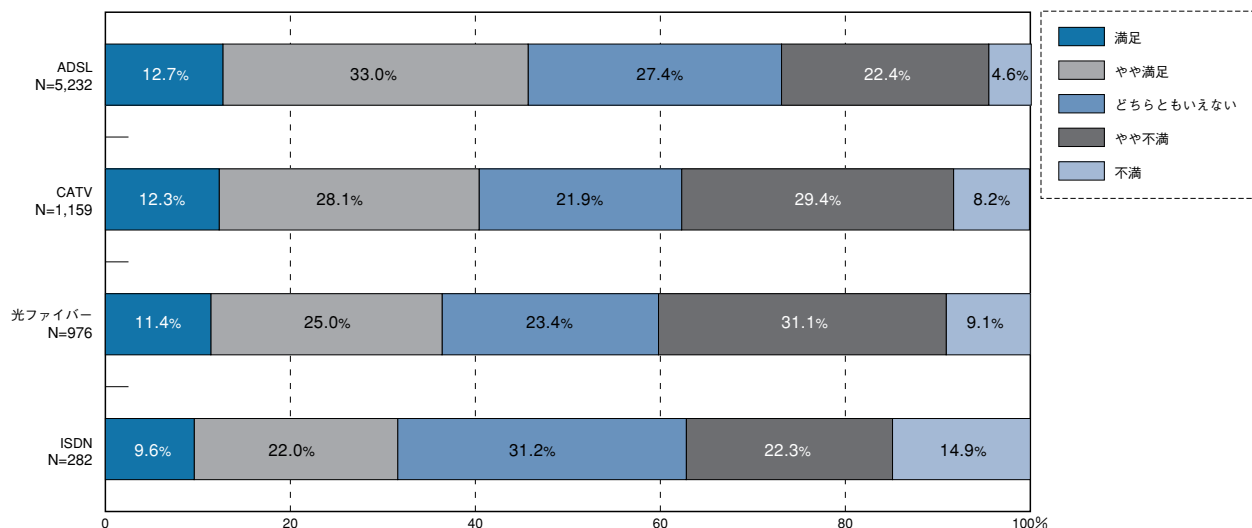


©Access Media/impress,2004

利用している回線の品質・スピードについては全般にそれほど不満があるという結果ではないが、「光ファイバー」「CATV」「ADSL」の順に満足度は高く、ブロードバンドの中で回答者の利用の大半を占める「ADSL」に対する満足度はあまり高くない。このことは「ADSL」利用者の回線乗り換え意向が高かったことを裏付ける結果でもある。

ADSL利用者の満足度が最も高い

資料2-1-12 回線別料金に関する満足度



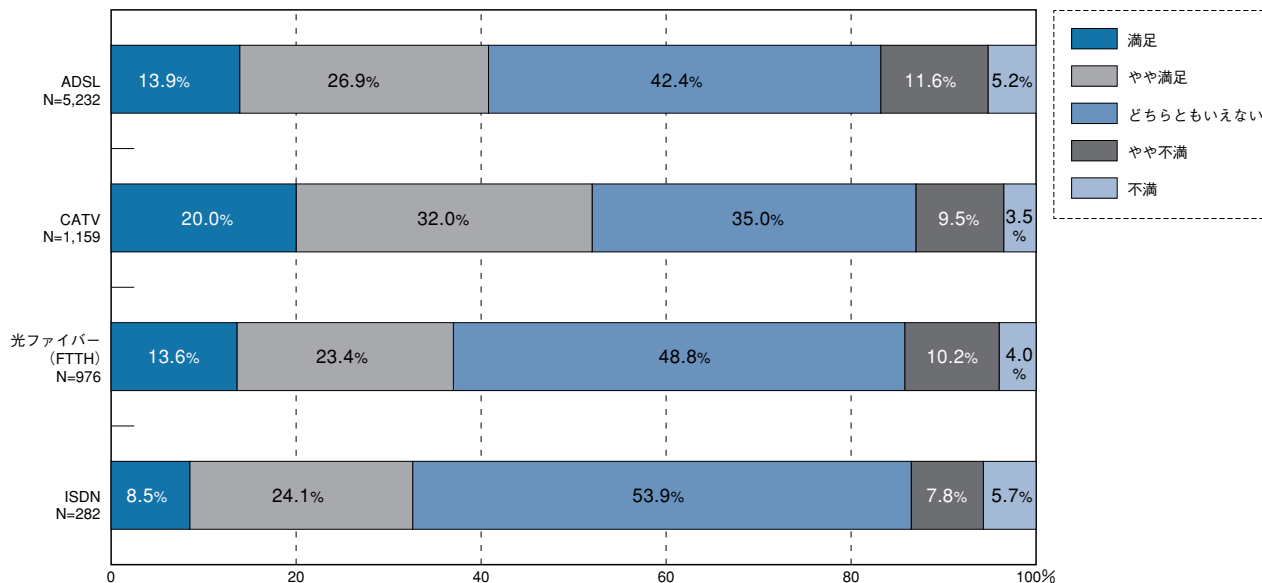
©Access Media/impress,2004

利用している回線の料金については「ADSL」利用者で最も満足度が高く、特に「やや不満」や「不満」が少ない点が特徴といえるだろう。一方、満足度が最も低いのは「ISDN」利用者である。日本でブロードバンドの大多数を占めるようになった「ADSL」は世界的に見ても比較的安価な料金設定がされており、この点が評価されたことで急速に浸透したともいえるだろう。

通信回線

「どちらともいえない」はサポート経験が少ないため

資料2-1-13 回線別サポートに関する満足度

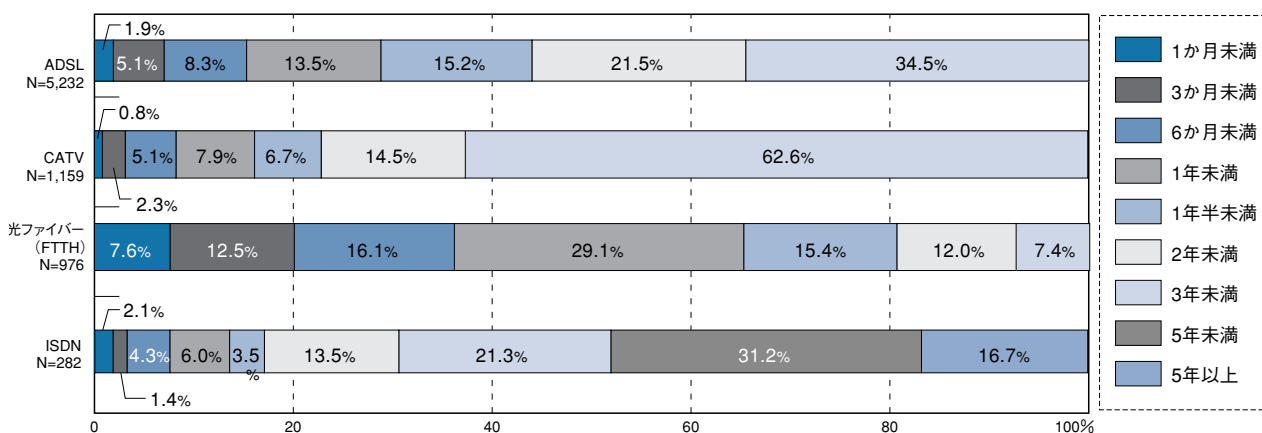


©Access Media/impress,2004

利用している回線のサポートについては全体的に「どちらともいえない」が高い。これは実際にサポートを受ける機会が少ないためと考えられ、不具合や障害の少なさが背景にあると見られる。回線別では「CATV」利用者で最も評価されており、「ISDN」利用者で最も低い。

ブロードバンド回線利用歴が長いのはCATV

資料2-1-14 回線別利用歴



©Access Media/impress,2004

「ADSL」「CATV」「光ファイバー」のブロードバンド利用者に対し、それぞれの回線についての利用歴を聞いたところ、最も長いのは「CATV」利用者で「2年以上」前からブロードバンド接続をしていたことになる。ついで「ADSL」「光ファイバー」の順で、「光ファイバー」利用者は6割以上がこの1年以内の利用歴で、そのうちの約半分は半年以内であることがわかる。「ISDN」利用者については、他の回線より選択肢の範囲を長くとしている。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp